

平成20年度 第2回 東京都地方独立行政法人評価委員会 高齢者医療・研究分科会
議事概要

1 日 時

平成21年2月19日 木曜日 午後6時30分から午後7時16分まで

2 場 所

東京都庁第一本庁舎33階南側 特別会議室S5

3 出席委員

高久分科会長、河原委員、鈴木委員、南委員（分科会長を除き、五十音順）

4 議 題

- (1) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの中期計画について
- (2) その他

5 議事概要

(1) 開会

冒頭、事務局より挨拶

(2) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの中期計画について

事務局より、中期目標の確認と中期計画の検討経過及び今後の取扱い並びに資料について説明

・中期目標について

平成20年度第1回東京都地方独立行政法人評価委員会(平成20年11月6日開催)において審議された後、平成20年第4回東京都議会定例会にて承認された。

・中期計画の検討経過及び今後の取扱いについて

本来、中期計画は法人の理事会で検討後、本委員会で審議を経て、知事が認可するという形式をとっている。しかし、4月1日設立・運営開始を予定しているため、本計画を運営開始時点で知事の認可を受ける必要がある。今回の委員会での意見を踏まえ、4月1日に理事会を開催し、中期計画の決定を行い、即日知事に提出して認可をいただくという形を予定。

また平成21年第1回東京都議会定例会において、検討経過(案)として報告をする予定である。

・資料1「地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター中期計画(素案)の概要」、資料2「地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター中期計画(素案)」、資料3「健康長寿医療センター中期目標 中期計画(素案)対比表」について説明

【質疑応答・委員意見】 太字ゴシックが委員意見

1(2)エ『適正な研究評価体制の確立』について、外部評価を実施するだけで良いか。何らかの評価基準をもう少し明確にするということを入れた方が良いのではないか。

(事務局回答)

研究の評価基準について、個人で外部資金をどれくらい導入したか、研究論文をどのくらい出したか、学会発表をどのくらいしたのか等、具体的なことは当然基準として考えられる。

しかし現在の社会情勢により、高齢者に対する研究費が大幅に削減されている。この4年間で外部資金をどれくらい取り入れられるかは見通しがつかない。現段階で具体的に提示することは困難であるが、時代に即した評価基準を作り、各研究員の評価もきちんとしていくつもりである。

評価を行う以上は何らかの評価基準があるはずである。具体的な基準の数値ということではなく、評価基準という言葉が入っていた方が良いのではないかということ。

中期目標3(1)『効率的・効果的な業務運営』の「管理者の責務の明確化や職員一人ひとりの経営に係る意識」の内容については、中期計画の中で明確にすべき。『個人の能力、業務を反映』という言葉はあるが、内容がやや不明確。

(事務局回答)

中期目標の本項目については非常に重視しており、公務員的な意識からの脱却というのが大きなポイントとなると考えている。

中期計画2(1)ウ『個人の能力・業績を反映した人事・給与制度』が中期目標のこの部分を受けたところだと捉えていただきたい。

1(1)ウ『地域連携の推進』(イ)に高額医療機器を地域に活用させていくということが記載されている。高額医療機器の利用率が低いようであれば、外部の医療機関から依頼を受けて、検査・報告するという形で地域に使用させるという考え方もあるのではないか。

(事務局回答)

民間の地域診療に使わせたらどうかということも考えている。財産管理にどのように反映させるかはこれからである。また高額医療機器の利用率は極めて良い。ただし地域の診療所からは、撮影のみで良いとか、読影のコメントまで書いて返信して欲しいなど様々な依頼がある。その要望に応え、より高めていく努力をするという意味も含め、地域連携強化の具体的方策として記載した。

2(1)オ(ア)『柔軟で機動的な予算執行』の「事業の機動性の向上と経済性を発揮する」について、「経済性」だけだと安ければよいと受け取られかねないので、「効率性」という概念も一体的に使用した方が良いのではないか。

(事務局回答)

どちらも同じ考え方として使用したが、文言として検討する。

2(2)キ『コスト管理の仕組みづくり』だが、これは重要なキーワードである。「人件費」、「経費削減」という文言は入っているが、設備関係の設備・備品の管理コストは、経費削減の中に含まれるのか。人件費の削減は非常に難しいので、設備関係のコスト管理が重要になると思う。

(事務局回答)

平成18年度・19年度の決算について損益計算書ベースに部門別原価計算を実施し、貢献利益等を弾いたデータを分析している。同時に診療単価についても他の急性期病院と比べて、入院単価・外来単価について、もう一步努力をする必要があり、原因を分析して目標値を作っていきたいと考えている。

また高額医療機器について、こちらは非常に稼働件数が上がっているものの、本当に適正な稼働件数なのかどうかという問題があり、検査待ちを減らす方策も必要である。また機器の利用だけではなく、その機器を利用した検査結果による教育など、開業医の先生方にも質の管理と教育も提供していくような、量と質の面についても色々と提案していきたい。

また人件費に次いで大きいのが材料費であり、購入の仕方・値引きのあり方・在庫管理・定数管理又は供給管理など、全面的に詰まりのない物流システムづくりをしていきたいと考えている。

1(1)カ(ウ)『患者の利便性と満足度の向上』について、「図書館機能を活用した医療に関する情報提供」とあるが、これは患者図書館というイメージではなく、病院の中の普通の図書館なのか。

(事務局回答)

現在、老年学情報センターがあり、そこにはかなりの蔵書がある。また、患者図書館は現在行っており、病棟への出張サービスも行っている。

* 今後中期計画については、必要な修正を行い、3月中に各委員に個別に説明を行うこととした。後日、各委員に個別に説明を行い、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター中期計画(案)が承認された。

(3) その他

事務局より、今後の分科会の開催等について説明

- ・ 中期計画についての検討は、今回で終了
- ・ 参考1「東京都地方独立行政法人評価委員会・分科会・幹事会の役割分担」の内容について説明
- ・ 事業年度の業務実績の評価について、法人運営初年度にあたる平成21年度の事業終了時に分科会を開催する。またこの業務実績の評価に関わる評価基準を作成する必要があるため、平成21年度中に本分科会を開催する予定である。